

平成 29 年度 新潟大学歯学部 主催
にいがた摂食嚥下障害サポート研究会 新潟県歯科医師会 共催
嚥下内視鏡講習会

日 時 平成 30 年 3 月 4 日 (日) 午前 10 時から午後 5 時

場 所 新潟大学歯学部 C310 大会議室 B301 歯科行動科学相互実習室

参加者 (カッコ内はインストラクタ)

研修参加

A 班 山田 剛 先生, 村松 瑞人 先生, 伊藤 栞 様 (辻, 前川, 吉原)
B 班 千葉 寛也 先生, 堤 浩一郎 先生, 小林 康子先生 (渡邊, 船山, 笹)
C 班 高田 晋子 先生, 碓井 由起子 先生, 池浦 一樹 様 (白石, 鈴木, 小貫)
D 班 北澤 公代 先生, 長谷川 俊樹 先生 (那小屋, 林, 竹石)

タイムスケジュール

10:00 - 10:05 スケジュール説明
10:05 - 11:05 講義 (井上 誠 先生)
11:15 - 12:10 摂食嚥下機能評価デモ
12:10 - 13:10 休憩
13:10 - 13:20 PENTAX による機器説明および洗浄デモ
13:20 - 15:35 インストラクターデモおよび相互実習
15:45 - 16:25 症例報告 (林 宏和 先生)
16:30 - 17:00 アンケート記入 写真撮影

概要

本講習会は、新潟県歯科医師会による摂食嚥下治療登録医等養成研修事業の支援を受け、地域開業医への摂食嚥下リハビリテーションの普及、及び、嚥下内視鏡検査の実際の活用例などを紹介する目的で開催された。新潟県歯科医師会からの推薦 4 名、一般申込み 5 名、コメディカル参加 2 名、受講者計 11 名の参加者となった。内視鏡機材の提供は HOYA 株式会社 PENTAX Medical 社の協力を得て開催された。

午前中は新潟大学 井上 誠先生による講義が行われた。この講義では、まず初めに日本における摂食嚥下障害患者の社会的背景と要介護高齢者の関連について説明された。摂食嚥下障害患者への臨床アプローチとして、唾液誤嚥と食物誤嚥への考え方やアプローチ法の違いについて、最新の知見を交えて紹介された。その中で、嚥下造影検査の特徴と比較しながら、嚥下内視鏡検査の有用性に触れた。嚥下障害患者における咀嚼運動の重要性と嚥下機能を担保しうる可能性について、症例を交えて説明された。

次いで、相互実習室に移動し、A～D の 4 グループに分かれ、摂食嚥下機能 スクリーニング評価実習を行った。新潟大学 摂食嚥下機能回復部で実際に使用している摂食嚥下機能評価表（スクリーニング検査）を用いて、その評価の意味と実践についてデモを交えて説明された。

午後の実習開始前に、PENTAX Medical 社から内視鏡機器の説明および洗浄方法についての説明が行われた。

嚥下内視鏡相互実習では、3 名を 1 班として、計 4 班に分かれてインストラクターの指示のもとで嚥下内視鏡の操作法から検査項目に至るまでの相互実習が行われた。基本的な操作方法の確認だけでなく、食形態・姿勢・飲み方を変えるなど、実際の検査・訓練場面を想定した実習となった。

相互実習後には、摂食嚥下リハビリテーション学分野 OB である林宏和先生（大阪府大阪市中央区開業）により症例報告が行われた。摂食嚥下障害患者に対応する多種職連携の重要性と、歯科としての課題について脳血管疾患後遺症患者症例を通じて提示された。また、維持期における摂食嚥下障害患者に対する考え方には、リハビリテーションだけでなく食支援という視点を持って対応すべきということ、自身の取り組みを通じて紹介された。

最後に、アンケートを実施、集合写真を撮って終了となった。次年度以降もこの事業を継続すること、また、大学病院で研修を希望する先生への支援体制の説明を行い終了となった。

2018年3月4日実施 嚥下内視鏡講習会 アンケート

① 講習会の講義・実習の評価をお願いいたします。

当てはまる記号 a～e に○を付してください。理由があれば（ ）に記載をお願いいたします。

1. 講義（内視鏡の適応と使用について）（井上 誠 先生）について

a.大変よかった 7 b.よかった 3 c.普通 0 d.やや悪かった 0 e.悪かった 0

- ・ 訓練等でも回復出来ることできないことをはっきりと理解することが大切だと思った。
- ・ 嚥下障害を生じているのは背景に何があるのか、よく考えなければならないと思いました。

2. 摂食嚥下機能評価デモについて

a.大変よかった 9 b.よかった 1 c.普通 0 d.やや悪かった 0 e.悪かった 0

- ・ 実際、病院や施設でやっておられる雰囲気が伝わり、わかりやすい説明でした。
- ・ 時間をかけて評価項目について、丁寧に教えてもらいました。

3. VE 相互実習について

a.大変よかった 10 b.よかった 0 c.普通 0 d.やや悪かった 0 e.悪かった 0

- ・ 一人に対する時間が十分取れていて、解説も丁寧で良かったです。
- ・ やるだけではなく、やられるという経験ができてとても良かったです。
- ・ インストラクターの先生が手とり…教えて下さり、できないながらも、理解はできたように思います。

4. 症例報告（林 宏和 先生）について

a.大変よかった 7 b.よかった 1 c.普通 0 d.やや悪かった 0 e.悪かった 0

- ・ 同じ歯科医でいろいろ頑張っておられてすごいと思った。
- ・ 実際臨床の場で歯科医がどのようにかかわっていけばよいか参考になりました。

② 先生方の臨床経験についてお伺いいたします。

当てはまる記号に○を付してください。

5. 摂食嚥下障害の臨床に関わっていますか。

a.ある 4 b.ない 6

a.ある の方は 6 へ b.ない の方は 14 へ

6. 歯科医師の臨床経験年数と摂食嚥下障害の臨床経験年数を教えてください。

・歯科医師経験

a. 20年以上 0 b. 10年以上 2 c. 5年以上 1 d.2年以上 0 e.1年以上 0 f.1年未満
0 無回答 1

・嚥下障害経験

a. 10年以上 1 b. 5年以上 0 c. 3年以上 0 d.2年以上 1 e.1年以上 1 f.1年未満 0
無回答 1

7. どの程度の頻度に関わっていますか。

a.毎日 2 b.毎週 2 c.毎月 0 d.年に数回 0 e.これまでに数回 0

8. 2017年3月現在、何名（のべ数、月）の摂食嚥下障害患者さんを診ていますか。

・のべ数

a.100名以上 1 b.50名以上 0 c.30名以上 0 d.20名以上 0 e.10名以上 2 f.10名未満
0 無回答 1

・月別数

a.10名以上 2 b.5名程度 0 c.3名程度 1 d.1名程度 0 無回答 1

9. 紹介元を教えてください（複数選択可）。

a.大学医科 0 b.大学歯科 0 c.病院医科 0 d.病院歯科 0 e.開業医科 1 f.開業歯科 1 g.
その他 0

無回答 2

10. どのような患者さんを対象とされていますか。

a.外来 1 b.往診（病院・診療所） 0 c.往診（在宅） 2 d.往診（施設） 2 e.その
他 1（訪問歯科，デイサービス） 無回答 1

11. どのような疾患に関わっていますか（いましたか）。

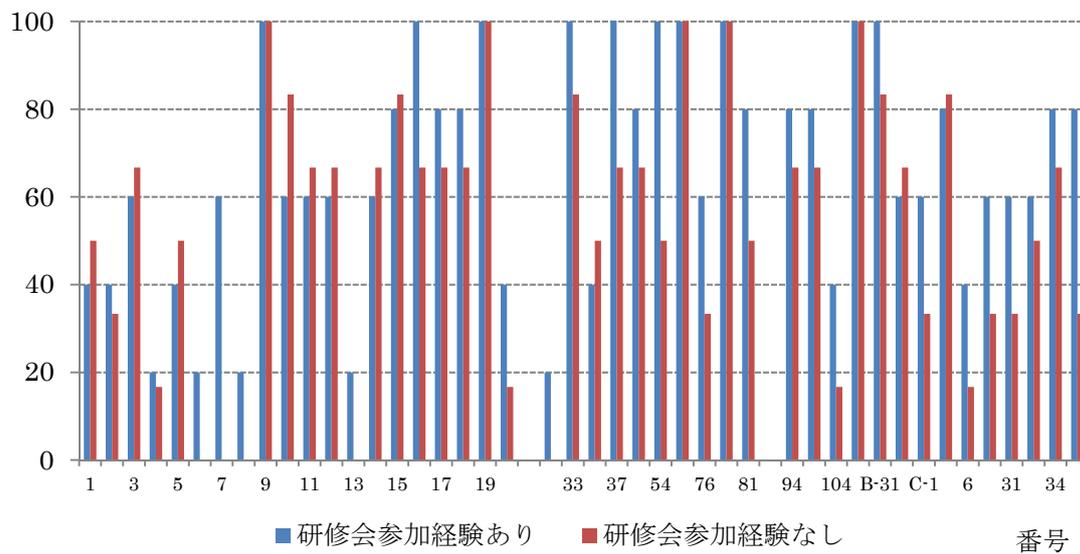
a.発達障害・先天異常 2 b.脳血管疾患 3 c.神経疾患 1 d.頭頸部腫瘍 0 e.その
他 1（認知症） 無回答 1

③ 追加アンケート（摂食嚥下リハおよび国家試験の問題解答）の結果

研修会参加経験あり 先生方 平均点 30.4 ± 6.0 （最高点 38／45 点）

研修会参加経験なし 先生方 平均点 23.7 ± 7.1 （最高点 36／45 点）

正答率（％）



研修会風景



